



2026年4月30日

各 位

会 社 名 株式会社ダスキン
代表者名 代表取締役 社長執行役員 大久保 裕行
(コード番号：4665 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員 経営企画部長 井出 丈晴
電話 06-6821-5071

取締役会の実効性に関する評価結果概要についてのお知らせ

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図ることを目的として、取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施いたしましたので、その結果の概要について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 分析・評価の方法

- (1) 取締役会は、全ての取締役、及び監査役に対し、取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施する趣旨等を説明し、理解を得た上で、第三者機関によるアンケートを実施いたしました。

実施期間	2025年12月15日～2026年1月8日
評価対象期間	2025年4月～2025年11月に開催した当社取締役会（全12回）
アンケート質問概要	取締役会の在り方、取締役会の構成、取締役会の運営、経営戦略・経営計画、内部統制・リスク管理、指名・報酬、社内取締役のパフォーマンス、社外取締役のパフォーマンス、取締役・監査役に対する支援体制、取締役・監査役へのトレーニング、株主（投資家）との対話、取締役・監査役自身の取組み、指名・報酬委員会の評価等

- (2) アンケート結果の集計後、取締役会から諮問を受けた「社外役員会議」（独立役員に指定している社外取締役全3名・社外監査役全3名で構成）が、集計結果を基に対象期間における取締役会の取組みを多角的視点から分析・評価し、2026年3月期中の総括及び2027年3月期に取り組むべき課題について提言を行いました。

- (3) 社外役員会議からの提言を踏まえ、更なる実効性向上に向けて取締役会にて討議を行いました。

2. 評価結果の概要

分析・評価実施期間	2026年2月6日～2026年3月26日
取締役会の実効性について	<ul style="list-style-type: none">・ 取締役会では、十分な審議を経て当社グループの経営上の重要事項の決議が行われている・ 重要な意思決定や経営課題についての議論も行われている・ 取締役会全メンバーによる「経営戦略会議」が定期的開催され、中長期的な経営戦略について建設的な討議がなされている・ 業務執行の迅速化を図るため、権限委譲を進めた・ 「執行役員会議」、各事業部門の予算執行状況やその乖離状況を的確に把握し対応策を協議する「予算進捗会議」、その他業務執行上の重要な会議には、必要に応じて社外取締役もオブザーバー参加する等、業務執行の監視、監督面の実効性が確保されている・ 取締役会の諮問機関である各種委員会・会議は、透明性、客観性が確保され、適正に機能している・ 毎年、前年度評価を踏まえて課題を抽出し、更なる実効性向上に向けた取組みを継続している

(1) 前年度の課題に対する取り組み状況

2026年3月期の課題		取り組み状況
内外情勢の変化へ柔軟に即応し、当社の企業価値を高めるための議論を強化する。	資本コストを意識したデータドリブン経営を一層推進し、企業「ダスキ」の競争優位性を検討すると共に、事業ポートフォリオ最適化の不断の議論を継続、深化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「稼ぐ力の強化に向けたコーポレートガバナンスガイド」に則り、当社の在りたい姿や優位性、価値創造プロセスを討議し、ガバナンス全体の見直しを進めた その結果、クリーンサービス事業を中心とした訪販グループの既存事業における収益性・生産性向上と、M&A等、新たな企業価値創造に向けた取り組みを加速することを共有した 事業ポートフォリオに関しては、フード事業のシェア拡大、ケアサービスの伸長により、全体構造が変化しつつあるが、最適化に向けては当社のあるべき姿に基づく議論を深める必要がある I T戦略統括本部を中心に基幹システムを刷新中であり、効率性を意識した事業分析を迅速に行うための基盤整理を進めた
中期経営方針2028の実行力強化を図る。	KPI進捗のモニタリングを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 取締役会において各種KPI進捗・業績報告がなされるよう、各事業においてロジックツリーに落とし込み予算KPIを設定する等の取り組みを進めた
	投資案件のモニタリングを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 投資案件は定期的な報告はなされており、取締役会上程時の計画との差異も確認、共有されている 新規案件については、事業の将来性に加えキャッシュアロケーション、将来株価を意識した審議が進んだ
	重要戦略の議論の深化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 監督と業務執行の役割を明確化し、業務執行に対する更なる権限委譲を進めたことにより、取締役会の大局的・戦略的な議論と意思決定の強化を図った
企業「ダスキ」のありたい姿、経営層の指名・評価・報酬制度、サクセッションプランの議論の深化を図る。		<ul style="list-style-type: none"> 指名・報酬委員会を定例の年4回に加え臨時開催を2回行い、サクセッションプランのブラッシュアップに向けた議論を深めた

(2) 2027年3月期の取り組み

当社取締役会は、今後も更なる実効性の向上に向けた不断の議論を継続してまいります。2027年3月期は主に以下について取り組みます。

<当社の「稼ぐ力の強化に向けたコーポレートガバナンスの取組み」を継続>

①価値創造ストーリー実現に向けた取組みの継続

- ・事業ポートフォリオ最適化の議論を深化させ、迅速かつ果敢な意思決定を行う
- ・資本コストを意識したデータドリブン経営の高度化を推進する
- ・正確かつ客観的データに基づく議論のための、情報分析の高度化を加速する

②予算KPI進捗・投資案件進捗のモニタリング強化

- ・予算の各KPI進捗、投資案件は当初計画進捗のモニタリングを強化し、乖離が生じた場合の早期の対策検討と共有、実行支援を行う

③監督と執行の分離の推進

- ・権限委譲を進めると共に事務局機能の高度化により情報・論点の整理、事前審議体制を整備することで、経営課題や企業価値向上に直結する本質的な議論を活発化し、執行側の意思決定プロセスの監督機能を強化する

④ガバナンス強化に向けた取組みの継続

- ・経営課題の解決とガバナンス強化に見合う体制についての議論を継続する
- ・指名・報酬委員会での経営層の評価・報酬制度変更に向けた議論を深化する

以上

本件に関する報道機関からのご照会は、以下へお願い申し上げます。
株式会社ダスキ 広報部 電話06-6821-5006